



# 毛呂山シトロonz

「心を一つに」みんなの心の和を最大の力に



毛呂山シトロonzは、バスケットボールとミニバスケットボールのチームです。シトロonzという名前は、毛呂山町の木「ゆず」から取った名前です。毛呂山町を代表するチーム、毛呂山町のみんなに愛されるチームをめざそうと名づけられました。

私たちは、強いチームより、良いチームをめざしています。良いチームとは、子どもたち一人ひとりの心と体が健全に育つチームです。小・中学生の子どもたちにとって、大切なのは今試合に勝つことよりも、スポーツをとおして、自ら学び、誰からも愛され、頼られ、皆から支えてもらえる人になることです。素直で



まじめな心と態度、そして自分も友だちも大好きな元気なスポーツ少年を育てることを目標にしています。バスケットボールは小学校、中学校の体育教材にもあるように、走る、跳ぶ、

投げける力や持久力、瞬発力、敏捷性などのあらゆる運動能力をバランスよく鍛えられるスポーツです。ほかの様ざまなスポーツの基礎となる能力を育てることができます。

指導は、日本体育協会の指導者資格を持った指導者が行い、一人ひとりにあつた技術指導を丁寧に行っています。また、シトロonzには、小学生的の活動と、中学生の活動があり、小・中継続してバスケットボールを続けることができます。

練習はいつも保護者に公開で、お子さんの練習はいつでも見ることが出来ます。お子さんの健康についての相談にも応じています。

**練習日** 小学生／土曜・日曜日午前8時30分～11時30分（高学年希望者のみ水曜日午後6時～7時30分）、中学生男子／木曜日午後7時～9時、中学生女子／日曜日午後7時～9時

**場所** 小学生／泉野小学校校体育館  
中学生／毛呂山中学校校体育館

**会費** 団費3000円（登録費を含む）、後援会費1万8000円（ユニフォームは団から貸し出します）

**問合せ** 毛呂山シトロonz ☎295-1746宮越

## 毛呂山歴史散歩 文化財シリーズ 230 にがはやしむらいしはしくやうとう 苦林村石橋供養塔

苦林浄水場の前の道を堤防沿いに東へ200メートルほど歩いていくと1基の石碑が目に残ります。「苦林村石橋供養塔」です。

「石橋供養塔」とは、橋の新設や修復に際して、橋が末永く破損しないこと、そして交通の安全や川の安寧を願って建てられる石碑です。高さは80センチメートル前後で、四角い柱や将棋の駒のような形をしたものが多く、碑面には「石橋供養塔」の文字とともに造立者名や建てた年号などが記してあります。

苦林村の石橋供養塔には、草書体で正面に「馬頭観世音」、右側面に「石橋供養塔」、左側面に「安政三年歳在丙辰夏四月 武勇入間郡苦林村講中」と記されており、この碑が石橋供養であるとともに交通安全を祈願する馬頭観音でもあること、幕末の安政三年（1856）に苦林村の人びとによって建てられたことがわかります。



苦林村石橋供養塔の碑文  
右側面の石橋供養塔（左）と正面の馬頭観世音（右）

残念ながら現在は江戸時代の石橋は残っていませんが、この碑は、かつて苦林村と鳩山の今宿村を繋ぐ石橋が存在したことを示す貴重な地域の歴史資料といえます。

町内には、苦林村のほかに4基の石橋供養塔が確認されており、なかには葛貫地内の宮脇橋脇の石橋供養塔のように、今日も橋の傍らに残っている碑もあります。

川は、清らかな水や豊かな土壌、川魚などの恵みを人びとに与える反面、洪水などの水害をもたらす危険な場所でもあります。河川土木技術が発達した現代では大きな水害は少なくなりましたが、川の安全を願う人びとの気持ちは今も昔も変わりません。